

【総合計画(中間報告)住民説明会(2021.10.26～11.1)での意見に対する市の考え方と対応】

説明会出席者: 延べ35名(質問・意見を項目ごとに集約)

No.	項目	質問・意見(要約)	市の考え方と対応
1	特色ある市の取り組みについて	・基本構想は具体が見えない。流山市などの他市の取組を学んでは。 ・阪南市として特色のあることをしてほしい。	教育・保育、ワーケーションなど取り入れ、リモートワークに適した住環境整備などの本市としての特色が出せるように重点基本方針で掲げている里山・里海を活用した内容のもと取り組みます。
2	土地利用について	・土地利用の方法として産業を発展させるような区域等の設定があるのか聞きたい。	本市は、関西国際空港から近く、第二阪和国道が整備され、多くの人や物が市内を縦横断していることから、企業など受入強化に向けた環境整備が求められています。関西国際空港圏や広域交通網などによるポテンシャルを活かした産業の誘致を推進していくため、今般の土地利用方針では、国道26号(第二阪和国道)などの広域幹線道路を活かし、環境に配慮された産業誘致による土地利用の促進を図るゾーンを新たに位置づけしています。
3	共創の取り組み、まちづくりについて	・若い世代の阪南市のイメージを聞いて、反映する余地について ・人を集めるために市民が参加しやすく、費用負担が少ないイベントを開催してほしい。	協働・共創による課題解決型ビジネスなどの社会的起業、文化・芸術の表現など、まちを「舞台」とした、誰もが親しみ表現できる環境を整え、多様な年代がチャレンジ(=自己実現)できるまちづくりに取り組みます。また、若い世代の阪南市のイメージを聞き、意見が反映できるように、SNSなど活用し、ゆるやかな関係性を軸とした、お互い様のまちづくりに取り組みます。
4	子育て・子育てについて	・子どもの意見を聴く機会をつくってほしい。 ・重点基本方針での取扱いに比べ子育てに対する施策が乏しいのではないかと	ご意見を踏まえ、昨年11月に小中学生との交流会を設けさせていただきました。基本計画における子育て支援の充実や就学前教育・保育の充実だけでなく、重点基本方針は、施策横断的に取り組むことで、子どもたちが地域で育ち、支え合うまちの実現に取り組みます。
5	生活支援・介護について	・コロナ禍で見えてこない、ひきこもりや認知症などの実態把握について	地域のつながりの希薄化や高齢者などの孤独・日常生活の不安をなくすため、社会福祉協議会、地区、CSW、地域包括支援センターなど連携し、誰ひとり取り残さない支援体制の構築をめざしています。また、地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進に向けた取り組みを進め、高齢者が身近な地域で参加できる介護予防事業・生きがい活動をさらに充実させ、フレイル対策を推進します。
6	温暖化対策について	・「地球温暖化対策」について、市役所の屋根に太陽光パネルを設置するなど、できることから進めていくことが重要。	本市は、令和32(2050)年までに市内の二酸化炭素排出量の実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」へ挑戦しています。市役所は、率先して省エネや環境にやさしい物品購入などできることから取り組みます。
7	学校教育について	・小中学校に教育の一環としてボランティアに参加することを取り入れてほしい。	子ども一人ひとりの権利が尊重された良好な教育環境により、充実した学校教育を行っています。重点施策方針には、子どもたちが日頃から社会課題に接する機会の創出を掲げています。
8	財政、農業振興について	・第2の夕張にならないように。阪南市で買い物するなどの手立てが必要。	持続可能な行財政運営の確立に向けて、令和3年(2021)9月に「行財政構造改革プラン改訂版」を策定しました。この策定したプランに掲げる取り組みを計画的かつ着実に進めてまいります。また、阪南ブランドの農産物および加工品(地場産品)の市内販売及び流通促進など、積極的に地場産品を市民生活に取り入れていくことをめざすとともに、関係者と連携、協力し、地産地消の推進に取り組みます。
9	財政について	・お金の支出を減らす、補助金の使い方について	持続可能な行財政運営の確立に向けて、令和3年(2021)9月に「行財政構造改革プラン改訂版」を策定しました。この策定したプランに掲げる取り組みを計画的かつ着実に進めてまいります。その取り組みのなかで、内部経費の見直しや補助金の再構築なども事務事業の見直しのなかで進めています。
10	計画の進行管理について	・基本目標・KPI、計画に対して確認するPDCAサイクル＝品質管理の考え方について ・計画をぶれずに推進してもらいたい。 ・とりあえず一度やってみて、検討修正しながら様々な取り組みを行ってはどうか。 ・取組が難しいものより、取り組みやすい施策から始めてはどうか。 ・計画づくりより、スピード感がある行動が重要。	今回の総合計画では、これまでのPDCAに加えて、施策・事務事業の構築・改善や、各施策に掲げる指標の達成状況の分析や状況に応じた指標への更新などを行うときは、事例や経験など主観的な要素のみでなく、根拠に基づく企画立案(EBPM)の考え方を重視し、統計データや関連データなどの客観的な要素を根拠とした実効性の高い企画立案・改善に取り組みます。また、変化が激しく将来の予測が困難な社会・経済情勢に臨機応変に対応していくため、施策の実施に際して即応性を求められる業務などにあったっては、ウーダ(OODA)ループの考え方を参考に、短い間隔での試行と意思決定の積み重ねを重視して取り組みます。
11	説明会の開催について	・ある程度計画ができてきてから、再度説明会をしてほしい。 ・今後、基本計画の中間報告をしていただきたい。	本計画素案を作成し、パブリックコメントの募集により広く市民の皆様から意見を募集させていただき、その後、計画として策定できました後、再度、説明会を開催していきたいと考えています。